

○ 本校の概要

(出身小学校)※在籍人数順 ①志茂田小 ②新宿小 ③西六郷小 ④道塚小 ⑤仲六郷小 ⑥高畑小 ⑦蒲田小 ⑧出雲小、矢口小、東大郷小、矢口東小 ⑨多摩川小、川崎市宮前小、館山さざなみ学校 ⑩その他
(学級数・生徒数) 通常級 15学級(各学年5学級)、特別支援学級 3学級 全校16名(令和3年4月現在)
(生徒の様子) ○校内に活気があり、何事にも一生懸命に取り組む姿勢がある。素直な気持ちの生徒が多い。○日々の授業に対する態度は真面目である。家庭学習や復習については個人差がある。○学校行事に対する思い入れが熱い生徒が多く、団結・協力して一生懸命に取り組む生徒が多い。
(地域の様子) ○大規模な繁華街に隣接しているが、本校の地域は静かで大変落ち着いた住宅地である。○地元愛が深く、地域力がとても強力である。○保護者・地域は、学校に理解を示し、大変協力的で様々な面で支援してくれる。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄	
								評価	人数
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これらの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国语教育指導員を効果的に活用し、外国人の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。 論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。 体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	4: 80%以上	A 5	・コロナ禍で、学校の様子はまったく言つてわからないです。コメントは何ともかけません。申し訳ありません。 ・コミュニケーションの手段、技術よりも、何を伝えたいのかが最も重要です。その何かがあれば、外国语やICTスキルを学ぶ意欲が湧いてくると考えます。ICTは、プログラミング教育とも関連があります。また非常時だけでなく理解の向上と慣れのために、通常時も自宅でタブレットを使った授業、講話を実行するのは有益と考えます。先生方の日々のご苦労に感謝申しております。		
			4: 全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	3: 70%以上	B	・これまでの取組 ・英語授業では少人数授業を実施し、基本的にには週1回ALTの授業を設定し、コミュニケーション能力を育んでいます。		
			4: 設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用了。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用了。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用了。 1:60%未満であった。	3	3: 70%以上	C	・これまでの取組 ・一人一台タブレット端末が配布され、授業での積極的な活用を実施している。		
			4: 対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3	2: 60%以上	D	・これまでの取組 ・ICT機器の取り扱いルールを定め、より有効的な活用を行う。		
			4: 全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	1: 60%以下		・今後の改善策 ・ICT機器の活用能を育んでいる。		
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 学習指導講師等による算数・数学、英語の補習を実施する。 授業改善推進プランを、授業に生かす。	4: 対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3	4: 80%以上	A 5	・学歴偏重社会(特に産業界)は終わりました。しかし、STEAM(科学技術アート数学)は職業として重要性を増しています。学問は手段であり、毎日の授業で学ぶことが、実社会の何に役立っているのか教示頂くと学習意欲や納得も高まり、成果として現れると言えます。		
			4: 学期に2~3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかつた。	2	3: 70%以上	B	・個々の能力に合わせて指導していくのは大変です。学力効率測定の結果を分析し、放課後・土曜日補習等に取り組み、一人一人の学力意識を高めていると思います。		
			4: 対象児童・生徒の出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	3	2: 60%以上	C	・今後の改善策 ・学習方法について、個々に細かく対応できるよう改善に努めます。		
			4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	1: 60%以下	D	・これまでの取組 ・ICT機器の取り扱いルールを定め、より有効的な活用を行う。		
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。 学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 問題行動・不登校問題等にかかる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。 「小中一貫教育生活指導スタンダード」(みんなの・わく・わく)を様々な活動の中で指導をし、切れ目なく健やかに、心の教育の充実を図る。	4: 全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	4: 80%以上	A 4	・コロナ禍で、不登校の生徒が増加しているのではと心配です。 ・成年年齢が18歳になりました。社会のルールのベースにある規範、法律などにあるペナルティの対象となる年齢が下がりました。刑事責任・民事責任・選挙民の権利義務を以前より明確に例示し、教育指導に当たられることも必要と想行します。		
			4: 学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかつた。	3	3: 70%以上	B	・振り返りシートや学期末反省等を実施し、個人の反省及び課題について取組を行った。		
			4: 「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	2: 60%以上	C	・今後の改善策 ・学習方法について、個々に細かく対応できるよう改善に努めます。		
			4: 「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	1: 60%以下	D	・学校では到達度を確かめるチェックシートを活用し確かな学力の定着を図った。		
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に對し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。 体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。 東京2020大会本番を迎えるにあたり、生徒の機運醸成や共生社会への理解促進を図るために、オリンピック・パラリンピック教育を充実する。	4: 全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	4: 80%以上	A 5	・一部の体育系部活動の生徒さん方と接する機会に恵まれますが、スポーツと体育を愛する気持ちの大きさに心感させられます。		
			4: 全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	3: 70%以上	B	・成年年齢が18歳になりました。社会のルールのベースにある規範、法律などにあるペナルティの対象となる年齢が下がりました。刑事責任・民事責任・選挙民の権利義務を以前より明確に例示し、教育指導に当たられることも必要と想行します。		
			4: 全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	2: 60%以上	C	・月1回、いじめ悩みアンケートを実施し、生徒の変容を確認している。		
			4: 必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。	4	1: 60%以下	D	・今後の改善策 ・継続した取組を実施していく。		
			3: 必要な事案に対しておこなった会議を実施した。 2: 必要な事案に対してあまり会議を実施しなかつた。 1: 必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかつた。	3					
			4: 7項目すべてについて指導を展開した。 3: 5~6項目について指導を展開した。 2: 2~4項目について指導を展開した。 1: ほとんどわからなかった。	3					
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOUTを充実させる。 各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 校内委員会等を確實に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	4: 80%以上	A 4	・先生方、職員の皆様の熱意とチームワークの良さが生徒さん方によく伝わっていると思います。		
			4: 学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかつた。	2	3: 70%以上	B	・教職員も指導力向上に努め、ICT機器等の取扱い・リモート授業・会議等の研修で得た知識を校内研修で充実させチーム志茂田として、常に報連相を忘れずに対応してくださることをお願いします。		
			4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	2: 60%以上	C	・今後の改善策 ・生徒の学力に応じた年間指導計画の作成を行う。		
			4: 月1回以上行った。 3:学期に2~3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかつた。	2	1: 60%以下	D	・オリパラ教育を継続実施し、様々な機会を提供していく。		
プラン6 学校・家庭・地域とともに家庭進める地域教育が一体となつて	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適							